

貝細工

写真左・中は最近見かけなくなったが、アサリ等の殻に布や色紙を貼った根付（財布などにつける小さな飾、印籠の根付は有名）である。少し前までは趣味で作るご婦人も多かった。



開運の貝(堤徳郎作)

伊豆諸島のアサリ

大島波浮港では、アサリを採る光景がみられる。

昭和 40 年後半、波浮港の東京都水産試験場大島分場の海水を汲み上げ貯蔵する高架水槽内の掃除時（溜まった砂の除去）に、大量のアサリ稚貝を採捕した事例がある。

東京都水産試験場（大田区糎谷）が、過去に次のようなアサリ放流を行っている。

昭和 8 年(1933 年)：羽田産アサリ 20 俵を大島波浮港。昭和 9 年(1934 年)：羽田産アサリ 120 樽を大島 3 ヶ所。昭和 10 年(1935 年)：羽田産アサリ 120 樽を大島 2 ヶ所。昭和 11 年(1936 年)：羽田産アサリ 20 俵を大島波浮港と岡田。昭和 14 年(1939 年)：羽田産アサリ 600 貫を大島波浮港。なお、戦後のアサリの放流は、昭和 26 年(1951 年)に式根島泊港、昭和 30 年(1955 年)に大島波浮港と元町地先に実施。

昭和 60 年(1985 年)10 月、八丈島神湊港の浚渫工事でアサリが一日 30kg 以上も採れ話題を集めた。大きさは 3-6cm（南海タイムス 1985 年 10 月 27 日）。

アラムシロ *Reticunassa festiva* Powry (目八) 荒筴



写真右：藻場造成試験中のアマモに群がるアラムシロ（羽田空港浅場）

ムシロガイ科 殻高 1.5cm。外見が粗い筴（むしろ）のような殻表。小型、硬い殻を持

ち、螺肋は顆粒上突起となる。分布は北海道南部以南、中国・フィリピンと広範囲。
腐肉食性、海底の掃除屋。普段は海底に潜っており腐肉の匂いに敏感に反応し行動する。

イガイダマシ *Mytilopsis sallei* (Recluz)



カワホトトギス科 殻長 2cm。殻はムラサキイガイ型のため、この和名がついた。殻色は暗白色から淡褐色、褐色の殻皮がある。

移入種。原産地は西インド諸島（カリブ海、メキシコ湾）。固着性二枚貝、運河等汽水域の護岸等に足糸で着生生息。日本での初発見は 1974 年、静岡県清水港。1975 年頃、京浜運河で生息を確認（青野良平）。現在は内湾や河口の潮間帯に広く分布、ムラサキイガイ・コウロエンカワヒバリガイ等の群集に混在。貧酸素に強い。産卵期は夏から秋と推測されている。

イソシジミ *Nuttallia japonica* (Reeve) (目八) 磯蜆



イソシジミ絵図 目八譜 天保 14 年(1843 年)

シオサザナミ科 殻長 7cm。殻は扁平、殻表は滑らかで黒褐色、光沢がある。分布は北海道南西部以南。

かつて羽田洲一帯に多く分布し、ウナギ延縄の餌として用いられていたが、昭和 30 年代